

2011 年度 J-DESC 会員総会 議事録

日時：2011 年 4 月 16 日（水）14:30～17:00

場所：JAMSTEC 東京事務所（東京都千代田区内幸町 2-2-2 富国生命ビル 23 階） セミナー室

議事次第

1. 開会挨拶 (IODP 部会・部会長)
2. 議長選任
3. J-DESC 会長挨拶
4. 議事次第確認
5. 2010 年度活動報告 (IODP/陸上掘削部会両執行部) 資料 1~3
6. 法人化検討結果報告 資料 4
7. 2010 年度決算報告・承認 (IODP/陸上掘削部会両執行部・監査役) 資料 5, 6
8. J-DESC 会長選任・承認
9. J-DESC 新会長挨拶
10. IODP 部会・新部会長の選任・承認 資料 7
11. IODP 部会・新部会長挨拶
12. その他役員選任
 - (1) J-DESC 理事
 - (2) IODP 部会幹事
 - (3) 陸上掘削部会幹事
13. 2011 年度活動方針について
 - (1) J-DESC 理事 (IODP 部会執行部) 資料 8
 - (2) IODP 部会幹事 (陸上掘削部会執行部) 資料 9
14. 2011 年度予算案提案・承認 (IODP/陸上掘削部会両執行部) 資料 10
15. その他
 - (1) J-DESC 会員機関現状報告 資料 11
 - (2) その他
16. 議長解任
17. 閉会挨拶 (陸上掘削部会・部会長)

配布資料

- | | | | |
|------|------------------------------|-------|----------------------------------|
| 資料 1 | 2010 年度コンソーシアム活動報告 | 資料 7 | 2011 年度執行体制 (案) |
| 資料 2 | 2010 年度 IODP 部会活動報告 | 資料 8 | 2011 年度 IODP 部会活動方針 (案) |
| 資料 3 | 2011 年度陸上掘削部会活動報告 | 資料 9 | 2011 年度陸上掘削部会活動方針 (案) |
| 資料 4 | J-DESC の法人化検討報告 | 資料 10 | 2011 年度収支予算 (案) |
| 資料 5 | 2010 年度収支決算書 | 資料 11 | J-DESC 会員リスト (2011 年 4 月 16 日時点) |
| 資料 6 | 貸借対照表・監査報告 (2011 年 3 月 31 日) | | |

議事録

1. 開会挨拶 (IODP 部会・部会長)

井龍康文氏による司会で始められた。

山崎俊嗣 IODP 部会長による開会挨拶があった。

2. J-DESC 会長挨拶 (議事次第 3. 議長選任と前後する)

斉藤靖二 J-DESC 会長から挨拶があった。

定足数を確認した。

(出席機関 17, 委任状 30, 計 47)

定足数(全 53 会員中の 1/2)を満たすとし、総会の成立を確認した。

3. 議長選任

渡辺喜保氏 (東海大) が選任され、拍手で承認された。

4. 議事次第確認

拍手で承認された。

5. 2010 年度活動報告 (IODP/陸上掘削部会両執行部)

山崎 IODP 部会長により、両部会共通部分の活動報告がなされた。..... 資料 1

・会員提案型活動経費で 6 件の採用、ほぼ予算額と同等の執行となった。

・2008 年度から始めた成果公表助成は、さらに周知の徹底が必要と考えられる。

山崎 IODP 部会長により、IODP 部会の活動報告がなされた。..... 資料 2

・乗船後研究支援制度 (乗船研究者平均 50 万円程度の目安) 等に加え、乗船前から乗船後のトータルな支援制度が確立された。

・次期 IODP の New Science Plan 策定に関わる WS 開催や、IODP-MI へのコメントを行った。

・法人化検討を行った。

・国際交流活動として、日韓沖縄トラフ WS 等を開催し、古海洋学について APL 提出に結びついた。

・USSSP による Early Career Scientists WS に大学院生 2 名を派遣した。

・講師派遣制度を始めた。

・東北沖太平洋大地震に対する Rapid Response Drilling 提案に向け、Detail Planning Group を立ち上げ今夏までに策定開始する予定がある。

[質疑]

・新体制のパネル等に関するメンバー数やミッションについて情報はるか？

→ 6 月の SASEC で新パネルの TOR が決定する予定である。

佐藤比呂志 IODP 部会長により、陸上掘削部会の活動報告がなされた。..... 資料 3

・ICDP プロポーザル申請を支援し、日本発では COREF と GONAF が採択された。

・ICDP 国際 WS やトレーニングコース等に派遣を行った。

・予定していた陸上掘削科学コアスクール (火山岩コース) が震災により中止された。

・地震発生時の Rapid Response Drilling 提案書が作成中で、4 月中に完成する見込みである。

以上、拍手で承認された。

6. 法人化検討結果報告 資料 4

山崎 IODP 部会長により、法人化検討結果の報告がなされた。

・これまでの法人化検討経緯、法人化の意義、法人化に伴う変化等を併せて検討した結果、法人化は見送るべきであると結論付けた。

[議論]

- ・JAMSTEC に帰属しては J-DESC が担っている活動の経済的裏付けが見え難い。乗船後研究支援制度等、第三者から理解し難い。独自に考えて行動できる足腰の強い仕組みが必要である。
- ・事務経費も含めて受託費から支出できるのではないか。かつて AESTO に支出(委託)されていた経緯がある。
- ・法人化すれば文科省から資金が得られる。JAMSTEC からそういう意見がある。
- ・JAMSTEC の一部の人の意見としてあるかもしれないが、現実的ではない。
- ・JAMSTEC から J-DESC に対して全く自由に使って良い予算が出せる見込みは全くない。委託費である以上、交付金のように自由には使えない。
- ・法人から法人への委託では連結決算となり、JAMSTEC がその説明義務を負えるか。今のようなサービスは出来なくなると JAMSTEC の事務は主張している。
- ・法人化することは容易だが、JAMSTEC の総意として J-DESC の独立した資金運用を認めない限り、経営的・技術的に無理である。
- ・お金の流し方だけが問題ではない。コミュニティを育てることが大事であり、J-DESC は独立した科学コミュニティの形成を目指すための唯一のチャンネルである。目的は法人化ではない。
- ・JAMSTEC にコントロールされない資金調達を目的とし、JAMSTEC に対して働きかける WG を法人化推進者につくってもらい牽引してもらおうのが良い。
- ・J-DESC が何をやっているのか、地方まで伝わってこない。伝える WG が必要ではないか。
- ・WG の設置も含め、次期執行部で再検討を求める。
- ・執行部はボランティアで活動しており、本件は J-DESC 開始以来議論してきたことである。特に旧執行部できちんと考えたことなので、安易に次期に送らないで欲しい。2,3 年くらい法人化には触れないで成果を出すことに力を注ぎたい。そのうち状況が変化するかもしれない。
- ・サポートないままボランティアでムチ打たれてきた。欧米並みにサポートされるべきで、主張し続けたことで徐々に改善されてきた。J-DESC が独自に考えコミュニティの立場に立って主張することが重要であり、そのための法人化議論である。
- ・如何に強化していくかを検討しながら、その都度、組織論を提案するのではいけないか。
- ・可能ならば法人化した方が良いことは皆分かっているが、しばらくは強化に努めたい。
- ・次期執行部でも法人化の議論は起こりうるが、検討を義務付けるべきではない。
- ・本来、法人化の検討は執行部ではなく TF を組織して検討されるべきである。

議長案として、法人化は見送るが、次期 IODP に向けてコミュニティの繋がりをより強化することに努め、必要に応じて TF や WG の設置を行うとする。

以上、議長案が拍手で承認された。

7. 2010 年度決算報告・承認 (IODP/陸上掘削部会両執行部・監査役).....資料 5, 6

山崎 IODP 部会長により、IODP 部会に関わる決算報告がなされた。

- ・繰越金が多いが今年度の新たな繰越金は僅かである。

山田泰広陸上掘削部会会計担当により、陸上掘削部会に関わる決算報告がなされた。

会計監査における、監査役(富士原敏也氏、伊藤孝氏)からのコメントが山田氏に代読された。

- ・4月5日、会計監査が学会支援機構において行われた。
- ・執行は適正であり、伝票類も適切に管理されている。

- ・繰越金が多い。切り崩しも含めた活発な活動が必要(富士原氏)。これ以上の活動は関係者への負担も多く、会費の減額も必要かもしれない(伊藤氏)
- ・成果公表助成の支出が少ない。制度の周知が足りないのではないか。
- ・陸上掘削部会の活動が低調ではないか。
- ・執行部会の旅費による支出が多く、会員への還元が増えるようにする必要がある。

会計業務を委託している学会支援機構からのコメント

- ・スケジュールが異常にタイトであり、このままでは業務受託は続けられない。
- ・残高証明書、その他の伝票が全て揃わなければならない、通常 3 週間以上が必要である。

決算報告について、拍手で承認された。

また、総会を 5 月末で調整することとして拍手で承認された。

8. J-DESC 会長選任・承認

藤井敏嗣氏(東大名誉教授)が選任され、拍手で承認された。

9. J-DESC 新会長挨拶

藤井新会長から挨拶があった。

10. IODP 部会・新部会長の選任・承認 資料 7

川幡穂高氏が選任され、拍手で承認された。

11. IODP 部会・新部会長挨拶

川幡新 IODP 部会長から挨拶があった。

- ・以下の 3 点について仕組み作りを試みる。

1) プロポーザルのレベルアップ

新規プロポーザルを審査し、Site Survey 等の肉付けによって点数の取れるプロポーザルに仕上げることを目指す。このような TF 等の仕掛けを作りたい。

2) 成果を出す。

成果公表助成について総額 100 万円を目指す。

3) 会員の平等な負担と受益を目指す。

大口会員機関の会費増額を検討する。

12. その他役員選任

(1) J-DESC 理事

資料 7 に基づき、山崎 IODP 前部会長により各役員の選任が紹介された。

(2) IODP 部会幹事

資料 7 に基づき、山崎 IODP 前部会長により各役員の選任が紹介された。

- ・徳山英一氏(東京大学大気海洋研究所)の所属について要修正。

(3) 陸上掘削部会幹事

資料 7 に基づき、佐藤陸上掘削部会長により各役員の選任が紹介された。

以上、拍手で承認された。

13. 2011 年度活動方針について

(1) J-DESC 理事(IODP 部会執行部) 資料 8

川幡新部会長から説明がなされた。

- ・議事次第 11. で紹介した 3 点について強化し、予算を執行する。(資料 10 参照)

(2) IODP 部会幹事(陸上掘削部会執行部) 資料 9

佐藤部会長から説明がなされた。

・新しいものが提案できるように努力する。

・IODP と違った特色を出してコアスクールを開催する。

・ICDP に関わる WS や海外シンポに派遣に努め、予算執行に努める。(資料 10 参照)

以上、議事次第 14. 予算案も含め、拍手で承認された。

14. 2011 年度予算案提案・承認 (IODP/陸上掘削部会両執行部) 資料 10

議事次第 13. で承認済み。

15. その他

(1) J-DESC 会員機関現状報告 資料 11

司会の井龍氏から説明がなされた。

・正会員として、九州大学大学院比較社会文化研究院及び京都大学防災科学研究所の入会があった。

・個人会員として小笠原宏氏(立命館大学)の入会があった。

(2) その他

・菊田宏之氏(事務局:JAMSTEC CDEX)から、J-DESC-JAMSTEC 共催による WS「次期深海掘削計画に求められる地球科学の新しいパラダイムの創設」(5 月 21 日)の案内があった。

16. 議長解任

司会の井龍氏により議長が解任された。

17. 閉会挨拶(陸上掘削部会・部会長)

佐藤陸上掘削部会長による閉会挨拶があった。

以上